

熊本大学英文学会

〒860-8555
熊本黒髪2丁目40番1号
熊本大学文学部
英語英文学研究室内
電話 (096)344-2111(代)



いあいさつ

会長 西川盛雄



大学英文学会のお世話をさせていただきます。今年度は同学会創立五十周年の節目の年です。

しくお願いいたします。本年度は同学会創立五十周年の節目の年です。十一月十一日(日)には記念大会が行なわれます。

小泉一雄氏についての話に触れていただきます。もうひとつの講演はロンドン漱石記念館長(名城大学教授)の恒松郁生氏にお願いし、同記念館のこととロンドン時代の漱石についてお話しいただきます。

に於ける英語教育も視野に入ります。従来積み上げてきた知的、人的財産を大切に時代に対応した新たな歴史を構築することが必要です。

熊本大学英文学会 創立の頃

今村 隆 (3回・昭30卒)

今年には本学会創立五十周年を迎えること、まさに感無量である。顧みれば、本学会は昭和三十一年(一九五七)三月末、学友会生みの親、故和田勇一教授の音頭で、熊大文学部の英吉利文学科の故河原畑正行、故山田昌司両教授をはじめ、熊大教養部の新進鋭の吉田正憲、木村正人(故人)両教官等、並びに第一

私はこのたび前会長の川本敬之先生のお世話を承けて熊本

五回卒業生の有志が集まって誕生した。当時、熊本市内の高校に勤務していた卒業生委員(中央高校の故藤川美伸、第一高校の足立昭七郎、熊本商業の東学部の英吉利文学科の故河原畑正行、故山田昌司両教授をはじめ、熊大教養部の新進鋭の吉田正憲、木村正人(故人)両教官等、並びに第一



の卒業生委員に郵送する仕事をしたものだ。当時の印刷機は謄写版だった。蠅引きの原紙をすり板

に河原畑・山田両教授が『The』として全盛期でした。あの赤レンガ教室に身付けた英語英文学の素養をもとに大分県の高校の英語教師として勤めては定年、退職してもう三年が経ちました。

現在英語とは全く縁のない生活です。小学校時代から興味が続いてきた『蝶』のコーナーに枯葉の裏に

と成るや石油危機などの影響をものを受けて、一千円、二千円、三千円、四千元、バブル期には六千円まで値上がりした。幸い、近年のめざましいITの普及で、パソコン時代

遂に、平成元年(一九八九)の総会で六千円を三千元に値下げする案が全会一致で可決された。それが今日までずっと維持されていることは誠に喜ばしいことであり、年金暮らしの私も何とか納入できる

因みに、会費六千円の頃の私の月給は当時の流行歌『おーい、中村くん』の文句じゃないが、一万三千八百円程度だった。

恩師はいま (9)

一年一日の如く

上利政彦

定年退職後五年目に入ります。熊本を去る日、宿舎の始末に手間取り、後で聞きますと、水前寺駅でお見送りの隈元先生と大学院生の皆さんを長時間待たせることになりました。が結局それもかなわずに佐賀に戻り、それから一ヶ月以上引越しの準備に入りまして。そのため、配慮いただいていた再就職の誘いもお断りして、五月も暑くなり始めた頃、広島は、市民球場石中間方向に見える山陰の裾野が切れるあたりに到着しました。市内にバスで二十分、広島駅には電車で十分、西に武田山東に太田川、牛田山を配した位置です。

それから荷解きなどの、殆ど限らない苦闘の末、夏は快適な北向き狭隘な部屋に設置などして、漸く秋口にはまとまった勉強が出来るようになっていきました。その後表題の如く、一時間以上のウォーキング、時に近くの山登り(熊本では江津湖、立田山)、判で押したような生活です。

この四年半、「ミルトンとルネサンス模倣論」(『英詩評論』21号)、英語史について(ヘルシンキ大学)、グリモルドの古語法(英文共著)を出しました。時間は十分にありますが、文献の入手には苦勞が要ります。市内の大学

図書館にお世話になり、これには時間がかかり半日、一日の仕事です。市民開放が進み、司書の方々も概ね親切で調査も進みます。それでも時は図書購入となりますが、この頃は古書共に高いですね。引越しの時に処分した本を買い直すことも起こります。近代英語の古語法を調べて今最終段階に入っています。そのために『トテル秀歌集』を読み切りました。これには懐かしい思い出があります。毎年大学院で、初版のコピーを二冊だけ読んでもらいました。

読まれた方は頷かれると思いますが、品詞や定動詞の決定もおぼつかない難解な英語にもかかわらず、見事意味を読み取ったサヨナラ・ホームランも教知れずでした。皆さん晴れやかな笑顔が浮かびます。ミルトン研究のため先の論究課題を果すこ

文で模倣論を古典期から通観しましたが、これはルイスの『忘れられた世界像』に啓発されたからです。優れたモデルに倣いこれを凌駕することが中世・ルネサンスの創造だと考えています。この模倣論・凌駕論からミルトンを見直すというものです。当たり前の視点ですし、研究もかなり成されています。作品の新たな読み方を目指して頑張っているところです。

六歳年上の私の敬愛する先生に於けると、七十台が人生最高の十年ということですが、可能な限り私が見習ってミルトンの研究課題を果すこ

と肝に銘じている。使命と言えば、昨年の秋から日本英文学会九州支部長を務める仕儀となった。昨年の春からは日本英文学会(本部)の編集委員も務めている。学会との縁が急に深まった気分である。しかし、ことは「気分」だけでは済まない。年中仕事の山という状況が出来し。愚痴をこぼすつもりはない。この紙面を借りてご紹介したいのは、間近に知った学会での熊大卒業生の活躍振りである。件の編集委員では

折角の機会です。皆さん、来年はどうぞ母校で恩師や先輩・同輩・後輩の活躍をご覧になってみませんか。歓迎いたします。



一九九八年十月、草千里一泊研修旅行。後列左から五人目が上利先生

第十六回生の仲間と還暦を迎える齢になった。昔ならば悠々自適の暮らしに入る時期であろうが、最近はどういう警沢は許されぬ。かくいう私も三度目の大学職場で汗を流している。通算二十九年間の国立大暮らしの後で私学へ戻ってみると、これまでの認識を改める機会が多い。国立大学が法人化で私学に近づいた分だけ、私学はこれまでになく特徴を打ち出す必要に迫られている。この方面で微力を尽くすことが私の使命か、

と肝に銘じている。使命と言えば、昨年の秋から日本英文学会九州支部長を務める仕儀となった。昨年の春からは日本英文学会(本部)の編集委員も務めている。学会との縁が急に深まった気分である。しかし、ことは「気分」だけでは済まない。年中仕事の山という状況が出来し。愚痴をこぼすつもりはない。この紙面を借りてご紹介したいのは、間近に知った学会での熊大卒業生の活躍振りである。件の編集委員では



孫と動物園で

蝶をテーマに

(14回・昭41卒) 原 義典

学生時代、和田教授の家を訪ねた。「先生、今日は遊びに来ました。蝶の部屋の研究、ネオタイ、ハンカチ、ブローチ、ペンダント、Tシャツの収集、家に「あそこ」は「蝶の部屋」、まさに蝶をテーマに生活しています。ついでに我が家の庭に、タフライドームを建ててしまいました。いー何とも金網張りのハウスの中で今、国木で鼻をくつつたような蝶のオオムラサキが舞っています。食草のエンキを植えて、幼虫を育てて蛹となり、親蝶として羽化します。今年には百五十頭ほどが飛び回りまじった。交尾して卵を産みます。小さな幼虫が落葉と共に地上に興味が続いてきた『蝶』のコーナーに枯葉の裏に



国蝶・オオムラサキのオス



くつついて冬を越しジツと春を待ちます。ほほ十二月の生きている例がありました。——ミヤコ蝶々！(若い人には分らんかも)

折角の機会です。皆さん、来年はどうぞ母校で恩師や先輩・同輩・後輩の活躍をご覧になってみませんか。歓迎いたします。



# 今なお予習に 四苦八苦

歌岡(旧姓・佐藤)彰子 (25回・昭52卒)

卒業して三十年。熊大はたまたま私の通勤路となつていて朝夕忙しく通り過ぎていくが、赤門の向こうから先納し、将来間違つても子どもは七色色の霧の中に煙っている。学生運動の残り火がまだ燃っていたあの頃、この門の前には長髪運動家達が立ち並び、「我々はあゝ、無関心ではいられても、無関心にはいられない」と盛んにアジを飛ばしていたものだ。

一年次の少人数クラスでは指導の独文学教授から「日本の友達とおしゃべりに打ち

興じ、十年後にやっと申し訳なきと恥ずかしさが襲つてきて穴があつたら入りたくなつたりという熊大気学生であつた。

最終学年はオイルショックの年となり慌てて求人票を探すが、三百枚以上あつたと記憶する中で女性可という企業は「田崎真珠」と「Pシャイ」の二社のみ。これは大変と死に物狂いで受験勉強に励み、教員採用試験を四県受けまくって今日に至る。三人の子供に手を焼きながら夜は予習に四苦八苦。今でも年に

## 恩師

楠木佳子 (48回・平12卒)

私は現在、広島工業大学で講師をしている。留学期間を懐かしく思い出す。その頃は「田崎真珠」と「Pシャイ」の二社のみ。これは大変と死に物狂いで受験勉強に励み、教員採用試験を四県受けまくって今日に至る。三人の子供に手を焼きながら夜は予習に四苦八苦。今でも年に

一度は予習を損なつて授業に臨む夢をみてうなされていく。

## 英文学と サプリ映画

池田(旧姓・吉川)裕子 (28回・昭55卒・昭57修)

熊大を何年に卒業したかすっかり忘れてしまいました。が、母校で教養英語の非常勤講師として学生と関わるようになってもう十数年になるでしょう。若い学生の気を惹こうと授業では映画や音楽を取り入れています。もっとも、ジョン・レノンの暗殺も知らない学生達にJDKの話をする、「阪神?」といううれい反応が返ってきます(笑)。

授業ではウケませんが、文学作品を映画化したものの中には、映画独自の味が出ている質のいい作品もあります。四年ほど前に上映された『めぐり合う時間たち』はそんな映画のひとつです。文字通りの「鼻の差」でアカデミー主演女優賞を獲得したV・ウルフ役のニコル・キッドマンの演技が光っていました。映画館に三度通い、映画の原作を

読み、次に埃かぶつた『ダロウエー夫人』に再会し、ついでに『自分だけの部屋』を引っ張り出して、自らめぐり合う時間を体感した映画でした。『シルヴィア』や『アイリス』では女性作家の凄惨な人生を垣間見ることができ、『理想の女』では映画を観なかったら一生読まなかったかもしれない『ウィンタミア卿夫人の扇』に出会うことができました。

映画はそれ自体を愉しむのはもちろんですが、文学作品との再会も新たな出会いのきっかけになり、さらにDVDと

## 留学が私にもたらしてくれた変化

4年 作田桃子

去年の八月一九日にアメリカ・モンタナへ発つて、約一年が過ぎました。初めてモンタナへ降り立つて心細く過ごした日々から約十ヶ月、私は多くの人に出会い、多くのことを学び、そして大きく成長できたと思います。そして今、モンタナの美しい自然の中で過ごした日々を思い出すととても懐かし、時々なにか大切な気持ちに駆られます。帰国してまだ日が浅い頃、ある友人に「留学ではどんなことを得たの?」と聞かれました。その時はうまく答えられませんでした。帰国後約

二ヶ月半経過してみても改めて自分に問いたしてみても、その答えは「人を以前よりも尊重する気持ちが持てるようになったこと」「柔軟になったこと」「考えられるようになったこと」ではないかと思えます。私は自分の文化もまた、多様な中



International Festivalの後、カザフスタン、タジキスタンの友人と



Thanksgiving Banquetにて韓国の友人と

英語に関わって生きていきたい。一年生の後期、その思いで英語英文学分野に進むことを決めました。偶然にも、その時同じ選択をした現在の三年生が、最後の英文分野の学生となりました。私たちの次の代から、欧米言語文学分野として統合されたからです。英会話能力が社会で重要視されている現在、とすると、英語を「話す」ということだけに注目しがちです。しかし、英語を専門として学んでいくこの分野では、「能力」だけでなく、「知識」を身に付けることも重要なポイントです。私は現在三年生の前期を終えたところですが、これまでに英語や英米文学についてさまざまなことを学んできました。

英語の変遷やキリスト教、理解の難しかった形の文法について学ぶと共に、「コロケーション」や「メタ・メッセージ」など、新たな視点を知りました。また、英米文学史に触れ、実際に原著を読んだりする一方で、新聞記事やエッセイなど、現在使われている英語の精読もしてきました。

私は映画を観たり本を読んだりするのが大好きですが、このようにして学んできた知識によって、本や映画の理解がさらに深まり、これまでとは違った視点で意見が持てるようになりました。さまざまな形態の授業で身に付けた知識は、英文分野の学生に視野の広がりを与えてくれているのだと思います。今後



2006年3月卒業生。里見先生は、3月末文化大に転出されました。

英文学会創立五十周年記念大会は、十一月十二日(午後一時より「アークホテル熊本」)で開催されます。多数のご来場をお待ちしております。

今年度の『英語英文学』は五〇周年記念号です。論文のご投稿を歓迎いたします(締切：一月末日)。投稿規定の詳細は四九号巻末をご参照ください。

ご意見・ご要望は、enb029@gpo.kumamoto-u.ac.jp

### 熊本大学英文学会創立50周年記念大会

日時：11月11日(土) 13:00～18:00  
場所：Ark Hotel Kumamoto (熊本市城東町5-16)

会長挨拶

第1部：講演

- 小泉 時 「身内からみたハーン像：亡父一雄から聞いた思い出話」
- 恒松都生 「ロンドン漱石記念館のこと等」

第2部：研究発表

- 伊東裕起 「W. B. Yeatsと『高貴さ』」
- 今村 隆 「五高外国人英語教師に関する資料調査余話」

第3部：シンポジウム

テーマ：「熊本大学英文学会50年のこれまでとこれから」

司会兼講師：中島 最吉 (熊本大学名誉教授)  
講師：吉田 正憲 (熊本大学名誉教授)  
講師：福田 昇八 (熊本大学名誉教授)  
講師：立尾 美咲 (第42回生)  
講師：岩下 理紗 (第49回生)

第4部：総会

懇親会：18:30～21:00

## 事務局より

二〇〇六年九月現在、英語英米文学研究室の卒業生、修了生、在校生の総数は、約一千六百名。うち、住所がわかる方は約八百名。会費納入者は約三百五十名。過去三年間の卒業生、修了生のうち、十年会費(一万円)の納入率は約七割。在校生の英文学会加入率(会費は学部生千円、院生千円)も約七割です。

事務局では、「たより」にご寄稿いただく方を、原則として会費納入者のなかから、卒業生が偏らないよう選んでいただいております。依頼文が届きましたら、ぜひご協力をお願いします。お問い合わせは、事務局まで。